

小平市教育委員会議事録（甲）

—— 10月定例会 ——

令和元年10月18日（金）

開催日時 令和元年10月18日（金） 午後2時00分～午後3時33分

開催場所 505会議室

出席委員 古川正之 教育長
森井良子 教育長職務代理者
三町章 委員
山口有紀子 委員
丸山憲子 委員

説明のための出席者 齊藤豊 教育部長
国富尊 教育指導担当部長兼指導課長
川上吉晴 地域学習担当部長
余語聡 教育総務課長
安部幸一郎 学務課長
荒木忍 教育施策推進担当課長
季高一成 地域学習支援課長
坂本伸之 中央公民館長
利光良平 中央図書館長
松長功二 学務課長補佐
関口優一 学校給食センター所長
岡村由美子 指導課長補佐
中村和哉 指導主事
窪田隆徳 指導主事
小影俊一 指導主事

書記 山本真由美 教育総務課長補佐、塚本真也 教育総務課主任
傍聴者 0名

午後2時00分 開会

（開会宣言）

○古川教育長

ただいまから教育委員会10月定例会を開会いたします。

議事に入る前に、10月1日付で、新たに教育委員として任命された丸山委員にご挨拶いただきたいと存じます。

○丸山委員

この度、教育委員会委員に任命されました丸山憲子と申します。私は、小平に生まれて、小平に育ちました。その小平で、これからの小平の教育行政に携わることができて、とても光栄に存じております。小平に住む子どもも大人も、老若男女が「小平っていいね、小平大好き」と思えるような教育行政を推進していく一助になればと思います。精進してまいります。よろしくお願いたします。

○古川教育長

ありがとうございました。よろしくお願いたします。続きまして、議席についてでございますが、小平市教育委員会会議規則第6条において、議席は教育長が定めることとされておりますので、現在、ご着席いただいている議席のとおりといたします。

(署名委員)

○古川教育長

それでは、議事に入ります。

初めに、議事録署名委員の指名を行います。本日の議事録署名委員は森井教育長職務代理者及び私、古川でございます。

次に、非公開にて取り扱う議題を決定したいと存じます。

本日の議題のうち、事務局報告事項(8)及び議案第26号から第29号までは、人事案件または個人のプライバシーを含んだ内容でございますので、非公開で取り扱いたいと存じます。

お諮りいたします。

ただいま申し上げました議題について、非公開にて取り扱うことに賛成の方は、挙手願います。

—賛成者挙手—

○古川教育長

挙手全員でございますので、非公開と決定いたしました。

それでは、本日の議題に入ります。

(事務局報告事項)

○古川教育長

初めに、事務局報告事項を行います。

(1) 教育委員会施設における台風19号への対応について説明をお願いいたします。

○齊藤教育部長

事務局報告事項(1) 教育委員会施設における台風19号への対応についてを報告いたします。資料はございません。

去る10月12日土曜日から翌13日日曜日にかけて、台風19号の接近により、小平市でも非常に強い風雨となることが予測されました。このことから、児童・生徒及び市民の安全を最優先し、小・中学校につきましては、12日土曜日は全校休校といたしました。また、公民館は、12日土曜日は終日、全館臨時休館、図書館は、12日土曜日から13日日曜日の午前中まで全館臨時休館といたしました。

なお、中央公民館及び東部・西部市民センターには、12日土曜日から13日日曜日まで避難所が開設されております。

この周知につきましては、学校から文書等により保護者へ周知いたしましたほか、市のホームページにより周知いたしました。

台風による被害状況でございますが、児童・生徒等に被害はなく、また、学校施設等につきましても、台風による大きな影響はございませんでした。

○古川教育長

(2) 平成30年度一般会計決算特別委員会の審査結果について説明をお願いいたします。

○齊藤教育部長

事務局報告事項(2)平成30年度一般会計決算特別委員会の審査結果についてを報告いたします。資料はございません。

一般会計決算特別委員会は、去る10月15日から17日まで3日間開催され、教育部の決算審査につきましては、昨日、17日の午後3時50分から行われました。教育部の審査終了後、午後8時5分から各会派の代表から総括質疑がございました。一般行政につきましては市長が、教育行政につきましては教育長が答弁をいたしました。総括質疑・討論の後、採決が行われ、賛成多数をもって認定すべきものという採決結果でございました。議決は、市議会12月定例会初日の本会議で行われる予定でございます。教育部の審査の内容につきましては、大変、多岐にわたっておりますので、市議会の要録が出来上がりましたら、そちらをご覧いただきたいと存じます。

○古川教育長

次に、(3)小平市立学校のインフルエンザ様疾患による臨時休業措置状況について説明をお願いいたします。

○齊藤教育部長

事務局報告事項(3)小平市立学校のインフルエンザ様疾患による臨時休業措置状況についてを報告いたします。資料No.1をご覧ください。

令和元年10月17日現在の市内市立小・中学校の臨時休業の状況でございますが、小学校で1校、1学級でございます。昨年度は、11月6日に最初の休業措置がとられましたが、今年度

は、昨年度よりも1か月半以上早い措置となりました。各学校には、市内及び都内の学級閉鎖等の情報を提供するとともに、インフルエンザの予防の指導として、小まめな手洗い、咳エチケットの励行、教室等の適度な室温、室内加湿、換気等の実施について通知し、対策の徹底を図っているところでございます。

○古川教育長

次に、(4) 小学校移動教室実地踏査時の交通事故の解決について説明をお願いいたします。

○齊藤教育部長

事務局報告事項(4) 小学校移動教室実地踏査時の交通事故の解決についてを報告いたします。資料はNo.2をご覧ください。

本件は、本年4月11日、教育委員会職員2名が小学校移動教室の実地踏査を終え、乗用車で市役所に戻る際に、運転操作を誤ったことにより、2車線道路の左側車線を走行する車両の右後方部に、自身の運転する車両の左前方部を接触させたものでございます。双方の車両の一部にすり傷状の欠損が生じたほかは、被害はございませんでした。右折レーンにおけるハンドル操作のおくれが原因により事故が発生したものと、相手側車両の所有者ご本人と、令和元年10月3日に示談が成立したため報告するものでございます。示談につきましては、ご本人へ車両修理費用として27万2,381円の損害賠償金を市が支払うことで合意に至りました。なお、損害賠償金は、公益社団法人全国市有物件災害共済会の自動車損害賠償保険から全額補填されます。

また、本件につきましては、11月18日の市議会幹事長会及び11月26日の市議会定例会初日の諸報告におきまして、報告をいたします。

○古川教育長

次に、(5) 平成31年度「全国学力・学習状況調査」における小平市立学校の結果概要について説明をお願いいたします。

○国富教育指導担当部長

事務局報告事項(5) 平成31年度「全国学力・学習状況調査」における小平市立学校の結果概要についてを報告いたします。資料No.3をご覧ください。

本調査の目的は、学校としましては、個々の児童・生徒の学習状況を把握して、指導に生かすとともに、学校全体として指導方法の検証・改善につなげること。教育委員会といたしましては、市立小・中学校の学力水準を検証し、教育委員会の施策の改善・充実に生かすこととでございます。

調査は、国・公・私立学校の小学校第6学年及び中学校第3学年を対象とし、平成31年4月18日(木)に実施いたしました。なお、原則として、特別支援学級に在籍している児童・生徒は調査の対象とはなっておりません。調査の内容は、国語、算数、数学、英語における知識の活用を一体的に問う問題と、生活習慣や学習環境等に関する調査でございます。

資料Ⅱの結果の概要でございますが、1ページの(1)各教科別の平均正答率をご覧ください。グラフと表で示しております。全ての実施教科において、全国の平均正答率を上回っております。また、特に中学校は、全ての実施教科において東京都の平均正答率を上回っております。

2ページ(2)各教科別正答数分布をご覧ください。全国及び東京都と同様の分布状況でございますが、小学校の算数では、全国と比較して上位層が多いという傾向が見られました。

続いて、3ページをご覧ください。(3)評価の観点別の平均正答率でございます。国語の書く能力、言語についての知識・理解・技能の観点で東京都の平均正答率を下回っております。資料には、このことに関連する問題を掲載いたしました。算数は、全ての観点で東京都の平均正答率と同等、または上回っておりますが、資料には正答率の低い問題を掲載しております。

国語と算数ともに共通することは、調べてわかったことや、資料からわかったことを踏まえて自分の考えを書くことに課題があります。今後は、多様な情報をもとに、自分の考えを書く言語活動の充実を図ることが必要となります。

続きまして、5ページの表をご覧ください。中学校につきましては、全ての実施教科において、多くの観点で全国及び東京都の平均正答率を上回っております。6ページと7ページの資料には、正答率の低い問題と無回答率の多い問題を掲載しております。

中学校も小学校と同様に、自分の考えを書いたり、自分の回答の根拠を説明したりすることに課題があります。

次に、質問紙調査の結果でございます。

9ページ、児童・生徒質問紙調査、学校質問紙調査の結果をご覧ください。実線は児童・生徒質問紙調査の回答、点線は学校質問紙調査の回答となっております。

昨年度までは、東京都と全国の平均値を比較した資料を掲載しておりました。例年同様に、自己肯定感に関する項目において、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」という回答は、おおむね東京都の数値を超えております。このことから、東京都や全国と比較するのではなく、小平市の現状に目を向けて、今、何が必要かを考えることが重要であると考え、資料の掲載方法を変更いたしました。

学校に行くのは楽しいと思えますか、の項目では、小学校、中学校ともに肯定的な回答をした割合が高く、教員の努力の成果だと言えます。一方で、学校を楽しくないと感じたり、自分にはよいところがないと感じていたりする児童・生徒がいることも事実です。いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか、の項目では、小学校では3ポイント、中学校では5.8ポイントの児童・生徒が、いじめを容認する回答をしています。肯定的な高い数値に目を向けるだけではなく、全ての児童・生徒が楽しく、安心して学校生活を送ることができるよう、回答の要因を調査し、迅速な対策をとるよう、学校に助言をしております。

次に、10ページをご覧ください。主体的で対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況についてです。児童・生徒の回答も、学校の回答も、高い数値となっております。一方で、児童・生徒の意識と学校の意識に乖離が生じていることがわかりました。現状の授業改善に満足することなく、全ての教科で育成すべき三つの資質・能力である知識・技能、思考力・判

断力・表現力等、学びに向かう力、人間性を育むために、学習の質を一層高める授業改善を進めることが求められております。

本調査の結果をもとに、児童・生徒の学力向上を図るため、学校訪問や各研修会の機会を活用し、各学校の調査結果に基づいた課題も踏まえながら、授業改善に向けた指導・助言を行ってまいります。

○古川教育長

次に、（６）寄附の受領について説明をお願いいたします。

○齊藤教育部長

事務局報告事項（６）寄附の受領についてを報告いたします。

資料No.4をご覧ください。

1は、書籍8冊をNPO法人ふるすあるは様より、小平市立中学校への指定寄附として、ご寄附いただいたものでございます。

この場をお借りしてお礼申し上げます。

○古川教育長

次に、（７）小平市教育委員会後援名義等の使用承認について説明をお願いいたします。

○齊藤教育部長

事務局報告事項（７）小平市教育委員会後援名義等の使用承認についてを報告いたします。

今回報告いたします承認事業は、資料No.5のとおりでございます。

詳細につきましては、余語教育総務課長から説明させます。

○余語教育総務課長

本日、報告いたしますのは11件でございます。うち、新規申請は3件でございます。

受付番号（58）小平アートサイトは、小平アートサイト実行委員会が主催する事業で、市内の公園に美術大学の生徒の作品を展示するとともに、市民参加型のワークショップや演劇パフォーマンス、作品鑑賞ガイドツアーなどのイベントを行うことで、アートを身近に感じていただくことを目的に開催するものです。

受付番号（60）第4回東京学芸大学ヒューマンライブラリーは、東京学芸大学ヒューマンライブラリー2019実行委員会が主催する事業で、在日外国人、障がい者、セクシャルマイノリティなどの方々を本としてお迎えし、参加者との対話を通して、多様な生き方を認め合う多様性に開かれた社会の実現を目指すことを目的に開催するものです。

受付番号（63）スポGOMI大会in小平は、スポGOMI大会in小平実行委員会が主催する事業で、ごみ拾いとスポーツを融合した社会活動として、子どもから高齢者までがチームワ

ークを高めながら楽しくごみの回収を行うことを目的として実施するものです。

そのほかの8件は、いずれも例年、もしくは過去に承認しているものでございます。

○古川教育長

ありがとうございました。では、ここまでの事務局報告事項につきまして、ご質問、ご意見等、ございますでしょうか。

○三町委員

幾つかあるのですけれども、事務局報告事項（2）の平成30年度一般会計決算特別委員会の審査結果について、口頭でお話しいただきましたけれども、決算特別委員会の中でも、議員からいろいろな教育行政にかかわっての指摘や要望のようなことも出てきていると思います。もし、そういうことで我々の参考になるようなことがあれば、教えていただけたらというのが1点目です。

2点目、（4）小学校移動教室実地踏査時の交通事故の解決について、事故発生が4月で、示談が10月でした。接触事故に関して感覚的に言うと、6か月もかかるというのは、考えられません。悪いのであれば、すぐに補償するというのは当然だと思うのですけれども、なぜこんなに期間がかかっているのか、教えていただけたらと思います。

○齊藤教育部長

一般会計決算特別委員会での質疑でございますが、大変、多岐に渡っておりまして、個々の事業についての内容もございましたけれども、今回、特徴的なところとしては、働き方改革の関係で、平成30年度から本格的に取り組んだということがございましたので、そうした中で、教員の今の勤務実態はどうか、また、それに対して、働き方改革として教育委員会としてどういう対応をして、今後どうしていくのか。そういったところが、今回、例年の質疑とは違って特徴的に挙げられていたところと捉えてございます。

○安部学務課長

移動教室の事故の関係でございます。示談に至るまでに期間を要しているということでございますけれども、詳細の理由については、手元に資料がないところでございます。恐らく、手続に時間を要したものと思われまので、確認をさせていただきます。今後はこのような事故がないように、気をつけてまいりたいと考えております。

○三町委員

ありがとうございました。1点目についてはよくわかりました。働き方改革については、進めなければいけないと同時に、私は学生を教えている身として、学生にとっていいことなのか、悪いことなのか、疑問なところもあります。つい先日、学生に議論させた中で、生徒指導にかかわ

って、夜に家庭訪問することについて、勤務時間外であり、働き方改革が進められているのにどうなのかというような声まで、学生のほうから出てくる時代になってきているので、危惧しているところです。いずれにしても、議員からのお話、参考になりました。

2点目ですけれども、明らかにこちらにミスがあれば、早く対応するべきだと思います。6か月間もの補償をどうしていたのかということもあると思います。どちらか曖昧なところであれば、長引いて、裁判になったりして結論出すというのはありますけれども、そうではない結論ならば、早く被害を受けた方に対しての救済をできるような形にさせていただくほうがありがたいということで、感想を述べさせていただきます。

○古川教育長

ほかの委員の方は、何かございますか。

○森井教育長職務代理者

事務局報告事項（5）平成31年度「全国学力・学習状況調査」における小平市立学校の結果概要についてというところで、質問をさせていただきたいと思います。

最初に伺いたいのは、昨年度も同様、毎年、調査を行われているわけですが、質問紙は、昨年も変わっていくというようなお話がありましたけれども、今年度も、昨年のもとは変わっているのかということをもまず伺います。

○小影指導主事

児童・生徒の質問紙ですが、昨年と変わっておりまして、昨年あった質問が、今年は無くなっているというようなこともあります。

○古川教育長

特徴的なことは何かありますか。

○小影指導主事

昨年、掲載しておりました家庭学習に関する質問事項は、今年度は無くなっていたので、昨年と比較することができませんでした。今年度は、新たな質問事項を掲載しております。

○森井教育長職務代理者

私が伺いたかったのは、家庭学習のことについてです。昨年、家庭学習に関しては、小平市はとても進んでいるというお話がありました。教員向けに家庭学習の手引を昨年度末までにつくって配り、家庭学習の充実を図っていきたいというお話もございました。家庭学習は大切だと思いますし、その結果が教科に関する調査の正答率を上げていくことにつながるであろうという期待もございます。昨年、家庭学習のことに関して進めてくださったことが、あるのであれば、質問

紙にはなくても、これを小平市としては進めたいというお話であったと思いますので、家庭学習の手引を作成して教員向けに配った際に、どのような反応があり、どのように指導に役立ったのかということに関して、少し学力調査の結果概要とは少し離れてしまいますけれども、伺わせていただきたいと思います。

○中村指導主事

昨年度、家庭学習の手引を配布し、学校に活用を働き掛けているところがございます。ある中学校では、入学してきた生徒全員に配布して、各学級で家庭学習の仕方を指導しております。また、手引きの中で、手帳を使って自分のスケジュールを管理する取組を紹介しており、新たにこのことに関連した取組を導入した学校もございます。

○小影指導主事

家庭学習に関する質問ですけれども、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」というのは、昨年も今年もありました。昨年と比較しますと、小学校ではおよそ5ポイント、中学校でも同様に0.3ポイント伸びているような状況です。東京都と比較しましても、小平市小学校6年生、中学校3年生ともに都内平均を上回っているような状況でございます。

○森井教育長職務代理者

全く同じ質問でなくても、それに関連する質問があるのであれば、経年比較というのは大切と思っています。特に、市で進めていくということのお話があったからには、行ったことの結果がこういう調査に結びついているということも考えられます。良い結果が出れば、教員の方の自信にもつながるということが十分に考えられますので、昨年と全く同じ質問紙がなくても、関連したものを私たちにも資料として見せていただきたいと思います。また、そのことが子どもたち、学校、教員の皆様方のモチベーションにつながるのではないかと考えます。学力に関しては、小学校、中学校ともに上がってきているということは、皆様方のご尽力や日頃のお力添えのおかげだと感謝しています。ただ、点数が上がればいいということではなくて、子どもたちの日ごろの学習や意識が高まるということも大切なことであると思います。さらによくなるための改善は来年度以降もしていただきたいですし、全く同じ質問紙がなくても、関連の質問に関して改善が見られるもの、改善が見られなかったものに関して、結果として示していただけるとありがたいと思います。

それと、学校質問紙等で数字が棒グラフになっていて、全体的にとっても見やすくなっているのですけれども、例えば、11ページの学校質問紙、調査対象学年の児童・生徒に対してということですが、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」「どちらかという当てはまらない」「当てはまらない」ということで、100になるべき数字が、足して100にならないものがあります。特に中学校では、105になっていますが、これはどういうことなのか質問させていただきます。

○小影指導主事

学校質問紙の調査対象学年の児童・生徒に対して、総合的な学習の時間というところの数値ですけれども、37.5と62.5の誤りでした。申し訳ございません。

○森井教育長職務代理者

それ以外も見直していただいて、数字に関したは正確に記載していただきたいと思います。

○三町委員

小学校、中学校、それぞれ小平市が東京都、あるいは全国から比べてほぼ超えているような結果だということで、大変うれしく思っているところです。ここ何年かの中で、かなり改善されてきていると私は印象を持っています。記憶では、ここまで全教科で、小平市がいい状態は今までにないことなので、関係者の皆さんの努力に対しても感謝したいと思います。

2ページ目にも、同じように正答数分布表があって、東京都や全国に比べて下位層の割合がやや少ないような状況になっているということは、学校でのかさ上げが、基礎的な技能、知識をしっかりと身につかせるという姿勢で取り組まれたことがこうなったのかと、勝手に感じていたところです。

その中で、まとめ方の問題として、少しわかりにくいのが、例えば、3ページで点線の中で、評価の関係の平均正答率があって、それについてのコメントが書かれています。これについては、全国と比較するという表現で、「これは小平の市の状況をまとめた」というのがすぐ理解できると思います。ところが、4ページ目の例示の問題がありますけれども、例えば、国語の「書くこと」は、課題となっているようなところです。そこのところが、昨年も聞いたと思うのですが、小平市独自なのか、東京都や全国的な傾向として課題だと指摘されているのか、正直読み取れません。これで見ると限りでは、小平市は課題ではないと思ったりもします。例えば、4ページ目の正答率、2問2種類の問題に対して、確かに、国語のほうは正答率が低い。でも、そんなに国と差がない。これも課題だと指摘しているし、グラフの問題も、正答率は、市は58.9%、国は49.8%ですけれども、これは課題だと言っています。これは何を課題として指摘しているのか、わかりません。整理してもらわないと、調査そのものがわからないという感じがします。同様に、5ページは、小平市の中学校の状況を書いているので、これはよくわかりました。それに対して、6番は、残念ながら、問題場面だけ書いてあって、問題が書かれていません。この報告は、概要では課題が読み取れないので、これらを書き直していただかないといけないのではないかと思います。さらに、その中で、問題がわかれば、それに対して何が課題かというので、中身が理解できるものだと思います。

どちらにしても、例えば、算数で課題だというのがあって、グラフの読み取りだとか、図書日より、柱状グラフ、ヒストグラム、そういうデータから読み取る。何を聞かれているかわからないのですけれども、そのような場面で問題解決していこうとするならば、今求められている部分

が弱い。つまり、データから必要なデータを取り出して、それを加工してから生かしていくという、作業が求められているわけですが、そういうことでの課題が、算数教育、あるいは数学教育の中でもっと充実していかなければいけないと思いました。そういうコメントもあつたらいいと思います。

もう一つ気になったのは、特に中学校の図書日より出てきている場面というのは、今度は小学校6年生で扱う問題になっています。小学校の6年生の統計資料の扱いについては、小学校の先生方で研修して深めていただいて、もともと弱い部分が、小学校におりてくるということですから、教師の指導力の不安を強く感じているので、ぜひ、学校に指導していただけたらと感じました。

○小影指導主事

4ページ、6ページがわかりにくいというので、大変申し訳ありませんでした。掲載している問題は、全国と比較しますと、小平市の数値は上回っております。ただ、評価の観点で見たときに、ほかの問題では60%から70%の正答率を示していますが、掲載している問題に関しては、正答率が著しく低いという結果であったため、今回掲載しました。問題等が載っていないと何が問われているかわからないというところは改善していきたいと思います。

○中村指導主事

今の説明に補足いたしますと、例えば、4ページの国語の問題ですが、これは自分の考えを、根拠を明確にして相手に伝えるということ我问う問題となっております。そして、算数の問題については、今、情報活用能力が重要視されています。複数のデータから必要な情報を読み取って問題解決する力は、新しい学習指導要領で求められている力であり、この力を測る問題として、掲載をしております。ほかのページも含めて、問題例の掲載の意図が伝わるようにしてまいります。

○国富教育指導担当部長

補足ですけれども、算数・数学の課題については、全国学力・学習状況調査が始まったときから課題になっております。1当たり量、密度に関する問題ですけれども、これが、ずっと平均正答率が50%を下回っているような状況が各市区町村、また全国で続いておりまして、理科についても、3年に一度調査があるのですけれども、水溶液の濃度、やはり、1当たり量です。それが、今年度も都や全国と比較すると数値が高いものの、身につけなくてはならない力としては課題があるということが、また明らかになりましたので、この点もご助言いただきましたことを踏まえて、資料を整理するとともに、学校には、小学校3年生から一人に対して幾つ分というような割り算の問題から、丁寧に系統的に押さえていくような指導・助言を図ってまいりたいと考えております。

○丸山委員

これまでずっとこの学力調査をなされてきて、これまでの過去のデータがあって、それに対する改善、そして、改善に対する結果というのも蓄積されていると思うのですけれども、先ほど、家庭学習のポイントが上がっているということのほかにも、これまでの改善に対してポイントが上がっているというところはあるのでしょうか。

○小影指導主事

各学校になりますが、自校の結果を受けまして、自校の課題点とそれに対する改善策の検証を、今、求めているところです。それを踏まえて、ホームページに掲載して、授業改善を図っていくということを例年行っています。

○荒木教育施策推進担当課長

児童・生徒質問紙に「自分にはよいところがあると思いますか」という自己肯定感を問う問題でございますが、過去には、中学生が都や全国と比較して「自分にはよいところがない」という回答が多くございましたが、市内の幾つかの小学校、中学校で自己肯定感を高める検討を進め、それを市内のほかの小・中学校にも周知し、その取組を各学校でも取り組んでいた結果、都や国と比べて同等、もしくは上回るという結果になりました。今年度は、どちらも都や国を上回っておりますが、それでも、「自分にはよいところがある」というところを「当てはまらない」と回答している児童・生徒が一定数おりますので、「どちらかという当てはまらない」ではなく、「どちらかという当てはまる」、もしくは「当てはまる」というような回答を自信をもってできるように指導してまいりたいと思います。

○山口委員

同じ資料3について、基礎的なところを教えていただきたいと思っています。小平市の平均点が全国平均を上回るようになったのは、ここ何年ぐらいのことで、ずっと上り調子できているのかどうかというのが1点目。書く能力のところで、データを読み取ったりする能力の点数が低いという課題は、ここ数年続いているのか。それに対しての取組が実際、行われているのか。もしくは、今年だけ特別に低かったのかというのが2点目です。3点目は、家庭学習の項目を質問用紙から抜かしたということでしたが、新たに今年から、家庭学習を抜かして、質問紙に入れた項目について、教えていただければと思います。

○国富教育指導担当部長

正答率の傾向でございますが、小学校においては、平成28年度までは、都平均を下回る状況が続いておりました。全国平均は上回っているのですけれども、都平均よりは下回っているという状況がございました。平成29年、平成30年、そして今年度と、都平均を上回るという状況です。中学校については、都平均、全国平均とも上回っている状況がございましたが、特に小学校

について、上回ってきているという状況でございます。

それから、課題になっておりますグラフ等の読み取り、読みの力は、今度の小平第五小学校の研究にもかかわってくるのですけれども、子どもたちが問題の一部分だけを読み取って解答してしまうことで、誤答になってしまう場合がございます。そうではなくて、全体として何が求められているのかということで、資料を読み取るときに、まずタイトルを読み取って、縦軸に何が書いてあるか、横軸に何が書いてあるか、そして、問題文全体を読み取るという、全体像を把握してから解答する力を育む授業づくりが本市においての課題、全国的な課題として授業改善を各学校に求めているところでございます。

○小影指導主事

新しく今年度より始まった質問項目についてです。幾つかありますが、一例を紹介します。「5年生まで、もしくは中学校1・2年生のときに受けた授業でコンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」「授業で学んだことをほかの学習に生かしていますか」などが新しく取り上げられております。

○山口委員

ありがとうございました。

○古川教育長

学力・学習状況調査については、よろしいでしょうか。それ以外で何かご質問、ご意見ありませんでしょうか。

○森井教育長職務代理者

事務局報告事項（7）小平市教育委員会後援名義等の使用承認について、先ほど、今年度から新しく承認した事業の中の63番、「スポGOMI大会」というのが、何か略しているのかもしれませんが、聞きなれない言葉ですので、説明していただきたいのと、実際、12月1日にどのようなことが行われるかについてご説明お願いいたします。

○余語教育総務課長

こちらにつきましては、ごみ拾いとスポーツを融合した新たな社会活動として小平市で初めて開催するもので、5人を1チームとして、20チームほどの規模で行う予定となっております。チームは、子どもから高齢者まで含めた形で作られ、60分間ごみ拾いをします。チーム内でリーダーを決め、走らないなどの安全確保を行い、ごみの分別、回収をスポーツマンシップにのっとった運営の中で行います。12月1日日曜日の10時に開会式を行い、中央公園噴水広場エリアで開催するものです。景品や参加賞なども配布されるといった内容でございます。

○古川教育長

よろしいですか。ほかにございませんか。

それでは、以上で事務局報告事項を終了いたします。

以上で、冒頭に非公開と決定したものを除く議題は終了いたしました。これ以降の議事は非公開にて取り扱いますので、関係者以外の方は、ご退席願います。

ここで休憩したいと存じます。

3時05分まで休憩いたします。

午後2時46分 休憩